

# 国際保健医療福祉学分野

## 論文

### A 欧文

A-a

- 1 . Nessipkhan A, Matsuda N, Takamura N, Oriuchi N, Ito H, Kiguchi M, Nishihara K, Tamaru T: Occupational radiation exposure among medical personnel in university and general hospitals in Japan. Japanese Journal of Radiology 42(9): 1067-1079,2024. doi: 10.1007/s11604-024-01579-3.
- 2 . Zabirova A, Saiko A, Orita M, Furuya F, Yamashita S, Takamura N: Thyroid ultrasound findings in young and middle-aged adults living in the region of the Chornobyl Nuclear Power Plant. Radiat Environ Biophys 63(3): 465-468,2024. doi: 10.1007/s00411-024-01083-2.
- 3 . Xiao X, Matsunaga H, Orita M, Kashiwazaki Y, Win TZ, Takamura N: Risk perception in long-term evacuees of Futaba Town, Fukushima: A cross-sectional study reveals greater concerns outside the Prefecture, 12 years after the accident. Journal of Radiation Research 65(4): 549-554,2024. doi: 10.1093/jrr/rrae039.
- 4 . Matsunaga H, Kashiwazaki Y, Orita M, Xiao X, Takamura N: The Relationship Between Years of Service and Traumatic Experiences Related to Radiation Among Local Government Staff Working Within 30 km of the Fukushima Daiichi Nuclear Power Station. Journal of Disaster Research 19(5): 829-835,2024. doi: 10.20965/jdr.2024.p0829.
- 5 . Miyata J, Yamanashi H, Kawashiri S, Soutome S, Arima K, Tamai M, Nonaka F, Honda Y, Kitamura M, Yoshida K, Shimizu Y, Hayashida N, Kawakami S, Takamura N, Sawa T, Yoshimura A, Nagata Y, Ohnishi M, Aoyagi K, Kawakami A, Saito T, Maeda T: Profile of Nagasaki Islands Study (NaIS): A Population-Based Prospective Cohort Study on Multi-disease. Journal of Epidemiology 34(5): 254-263,2024. doi: 10.2188/jea.JE20230079.
- 6 . Imakhanova A, Matsuda N, Takamura N, Oriuchi N, Ito H, Awai K, Kudo T: Radiation Exposure Characteristics among Healthcare Workers: Before and After Japan's Ordinance Revision. Health Physics 126(4): 207-215,2024. doi: 10.1097/HP.0000000000001793.
- 7 . Zabirova A, Matsunaga H, Orita M, Kashiwazaki Y, Xiao X, Schneider T, Takamura N: Impact of the discharge of treated water on residents' intention to return to areas near the TEPCO Fukushima Daiichi Nuclear Power Station a decade after the accident. Radioprotection 60(1): 99-108,2024. doi: 10.1051/radiopro/2024036.
- 8 . Matsunaga H: Negative Aspects of Self-Imposed Evacuation among Mothers of Small Children Following Japan's Fukushima Daiichi Nuclear Power Station Accident. International Journal of Environmental Research and Public Health 21(5): 592,2024. doi: 10.3390/ijerph21050592.

A-b

- 1 . Samuels S, Reynolds J, Sharma SK, Shrestha A, Tiwari A, Bhattacharai U, Gautam U, Das S, Trenchard T, Sadat A, Gan P, Kumar A, Mohammed S, Kattody P, Kathoon N, Kumar S, Sallnow L, Nakashima M, Takamura N, Waguil A, Werning I, Balasubramanya KV, Kastura AM, Koodalimath RS, Bellizzi S, Das S: Highlights 2024: diverse insights and perspectives on health stories. Lancet 404(10471): 2505-2534,2024. doi: 10.1016/S0140-6736(24)02718-1.

A-e-2

- 1 . Zabirova A, Matsunaga H, Orita M, Kashiwazaki Y, Xiao X, Takamura N: Differences in community awareness regarding the discharge of treated water from the Fukushima Daiichi nuclear power station. Journal of Radiation Research 65(3): 413-415,2024. doi: 10.1093/jrr/rrae027.

### B 邦文

#### 学会発表数

A-a	A-b		B-a	B-b	
	シンポジウム	学会		シンポジウム	学会
2	0	3	1	0	6

#### 社会活動

氏名・職	委員会等名	関係機関名
高村 昇・教授	東日本大震災・原子力災害伝承館館長	公益財団法人 福島イハーションコース構想推進機構
高村 昇・教授	内分泌学、疫学 顧問	公益財団法人 放射線影響研究所

高村 昇・教授	共創アドバイザー	公益財団法人 環境科学技術研究所
高村 昇・教授	臨床研究部 顧問	公益財団法人 放射線影響研究所
高村 昇・教授	長崎市国民保護協議会委員	長崎県長崎市
高村 昇・教授	福島県「県民健康調査」検討委員会委員	福島県
高村 昇・教授	福島県 放射線と健康アドバイザリーグループアドバイザー	福島県
高村 昇・教授	中間貯蔵除去土壤等の減容・再生利用技術開発戦略検討会委員	環境省
高村 昇・教授	雲南省原子力安全顧問	島根県雲南省
高村 昇・教授	双葉町放射線量等検証委員会委員	福島県双葉町
高村 昇・教授	長崎・ヒバクシャ医療国際協力会運営部会委員	長崎・ヒバクシャ医療国際協力会
高村 昇・教授	有識者委員会委員	一般社団法人 日本原子力文化財団
高村 昇・教授	野生鳥獣肉にかかる出荷制限解除等検討会委員	福島県
高村 昇・教授	放射線副読本改定協力者	文部科学省
高村 昇・教授	中間貯蔵除去土壤等の減容・再生利用技術開発戦略検討会コミュニケーション推進チーム (CT)	株式会社エックス都市研究所
高村 昇・教授	永井隆平和記念・長崎賞選考委員会委員	長崎・ヒバクシャ医療国際協力会
高村 昇・教授	放射線リスクセンター運営委員会委員	公益財団法人原子力安全研究協会
高村 昇・教授	客員研究員	広島大学原爆放射線医科学研究所
折田真紀子・准教授	雑誌編集委員	公益社団法人長崎県看護協会

### 競争的研究資金獲得状況（共同研究を含む）

氏名・職	資金提供元/共同研究先	代表・分担	研究題目
高村 昇・教授	日本学術振興会	分担	基盤研究C 長崎原爆の地形遮蔽による低線量被曝に関する疫学研究
高村 昇・教授	日本学術振興会	分担	基盤研究C 原子力災害被災地における復興・帰還事業に係る情報発信と情報の受け止め方の検証
高村 昇・教授	日本学術振興会	分担	基盤研究C IVR介助看護師の被ばく低減に対する放射線防護教育プログラムの構築
高村 昇・教授	日本学術振興会	分担	基盤研究C 原子力災害における地域の中核病院看護師への防災教育システムの構築
高村 昇・教授	環境省	代表	放射線の健康影響に係る研究調査事業 双葉町、大熊町における処理水、除去土壤、廃炉に関するリスク認知評価と、リスクコミュニケーションおよびそれに資する環境放射能評価の推進

高村 昇・教授	日本学術振興会	代表	国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B)) チェルノブイリから福島を知る～甲状腺超音波所見の自然史
折田真紀子・准教授	日本学術振興会	代表	研究活動スタート支援 福島第一原発事故の処理水放出に関する周辺住民の不安に関連する要因の解明
折田真紀子・准教授	日本学術振興会	代表	若手研究 福島原発事故の処理水放出による風評影響への住民の懸念に関連する因子と対話の効果
松永妃都美・准教授	日本学術振興会	代表	基盤研究B 放射線防護リスクコミュニケーション現任教育モデルの検証
柏崎佑哉・助教	日本学術振興会	代表	研究活動スタート支援 不確かさ不耐性特性が放射線リスク認知とリスク受容に及ぼす影響に関する実証研究

## その他

### 非常勤講師

氏名・職	職（担当科目）	関係機関名
高村 昇・教授	医学部1年「医療入門A」学外実習における講演	公立大学法人福島県立医科大学

### 新聞等に掲載された活動

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
高村 昇・教授 折田真紀子・准教授	12月1日、ホテルニュー長崎で開催された「チャレンジふくしまフォーラムin長崎」にパネリストとして参加した。	読売新聞	2024年1月27日	福島県川内村の遠藤幸雄村長や長崎市の田上富久前市長とともに「長崎と福島の絆」をテーマにしたパネルディスカッションを行い、当時の状況や復興に向けた取り組み、福島の魅力について語った。
高村 昇・教授	1月31日、東日本大震災・原子力災害伝承館を訪れた長崎県の修学旅行生（高校生）を案内した。	福島民友	2024年2月2日	広島と長崎で「二重被爆」した曾祖父の体験を継承し、語り部として活動している長崎市の高校2年生 原田晋之介さんを含む長崎県の修学旅行生に対し、展示の説明などを行った。
高村 昇・教授	2月15日に長崎市で開かれた国際シンポジウムでウクライナ国立放射線医学研究センターのドミトリー・バジーカ所長が行った講演内容について、意見を述べた。	長崎新聞	2024年2月24日	「もし放射線災害が起きた場合は日本、そして長崎大として協力できる態勢が必要。ただ戦時下では支援が制限を受ける可能性があり、専門家育成のためにウクライナの医療関係者を招きたい」と話す一方、「（現在は）軍医として従事している人が多い上に一定年齢の男性は原則、国外に出られないようだ」と、もどかしさもにじませた。

高村 昇・教授	東日本大震災・原子力災害伝承館が2024年9月頃からフランス・モンペリアールでパネル展示を行う。	福島民友	2024年3月5日	フランス・モンペリアールで東日本大震災と東京電力福島第一原発事故の経験と教訓を広く伝えるパネル展示を行う。伝承館が海外で展示を行うのは今回が初めてであり、高村教授のつながりで初めての海外展示が実現する見通しとなった。
高村 昇・教授	3月11日、福島県の「3.11メモリアルイベント」が東日本大震災・原子力災害伝承館で開かれ、俳優の横田龍儀氏と対談した。	福島民友	2024年3月12日	福島県の「3.11メモリアルイベント」が東日本大震災・原子力災害伝承館で開かれ、俳優の横田龍儀氏と「家族との絆・支え合うこと」をテーマに対談した。
高村 昇・教授	3月11日、福島県の「3.11メモリアルイベント」が東日本大震災・原子力災害伝承館で開かれ、俳優の横田龍儀氏と対談した。	福島民報	2024年3月13日	福島県の「3.11メモリアルイベント」が東日本大震災・原子力災害伝承館で開かれ、俳優の横田龍儀氏と「家族との絆・支え合うこと」をテーマに対談した。 「若い人が伝えていくことが大切。記憶はあやふやになりかねず、収集していくことが大事だ。幅広い人の当時の記憶が将来の防災減災につながる」と継承の意義を説いた。
高村 昇・教授	3月12日、福島県の双葉町産業交流センター（F-BICC）で、福島の復興推進拠点活動報告会を開催した。	長崎新聞	2024年3月13日	東日本大震災の被災地である福島県の川内、富岡、大熊、双葉4町村に設置した復興推進拠点の活動報告会を双葉町産業交流センター（F-BICC）で開いた。 長崎大学のほか、福島県内の大学や企業の関係者8人による教育や地域復興などの取り組みについての報告や、大熊町長らによる座談会が行われ、現地とオンライン合わせて約100人が参加した。
高村 昇・教授	東日本大震災・原子力災害伝承館が2024年9月から1年間、フランスのモンペリアール市で海外初の出張展示を行う。	福島民報	2024年3月13日	震災と東京電力福島第一原発事故の発生当初から13年間の復興の歩みをパネルで紹介する。 期間中は、語り部とともに渡仏し、科学的事実に基づく福島県の正確な情報や体験を踏まえた教訓を発信する。
高村 昇・教授	3月16日から、東日本大震災・原子力災害伝承館で「盆踊りの継承パネル展」が始まった。	福島民友	2024年3月17日	展示では、東京電力福島第一原発事故で一度は存続が危ぶまれた双葉郡8町村や飯館村も「盆踊り」がどのように継承されているかをまとめた。震災前の踊りの様子に加え、現在の継承がどのように行われているかなどについて、継承している人の思いも交えて分かりやすく解説している。

高村 昇・教授	環境省が実施した、中間貯蔵施設に一時保管している除染土壌の最終処分についての全国調査結果に対して意見を述べた。	福島民報	2024年4月9日	東京電力福島第一原発事故で中間貯蔵施設（大熊町、双葉町）に一時保管している除染土壌の福島県外最終処分について、環境省が2023年度までの過去6年間に全国調査を実施したが、県外最終処分を「知らない」と答えた人の割合が直近の調査でも県外で85%前後、県内で半数程度となり認知度が改善されていない状況である。この状況に対し、「除染土壌が発生した経緯や最終処分に向けた対応などを教育の中に取り入れ、児童・生徒に分かりやすく伝えるべきだ」と強調した。
高村 昇・教授	4月17日、永安武長崎大学長、松井史郎副学長とともに内堀雅雄福島県知事を表敬訪問した。	福島民友	2024年4月18日	長崎大学は東日本大震災と東京電力福島第一原発事故の直後から福島県で健康リスク評価や帰還に向けた線量測定など福島県の復興支援に取り組んでおり、今後も復興支援を続ける考えを伝えた。知事表敬後、福島医科大の竹之下誠一理事長兼学長や福島国際研究教育機構（F-REI）の山崎光悦理事長とも個別に会談したほか、東日本大震災・原子力災害伝承館を視察した。
高村 昇・教授	4月17日、永安武長崎大学長、松井史郎副学長とともに内堀雅雄福島県知事を表敬訪問した。	福島民報	2024年4月18日	長崎大学は、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故発生後福島県内の被災地で放射線のリスクを分かりやすく県民に説明するなど復興を後押ししており、今後は福島国際研究教育機構（F-REI）や福島大などと連携し、さらには国際原子力機関（IAEA）などの協力も得て世界の防災・減災に福島の教訓を役立てたい考え。原子力災害の専門知識を持った人材育成にも力を入れる。知事表敬後、福島医科大の竹之下誠一理事長兼学長やF-REIの山崎光悦理事長も訪ねた。

高村 昇・教授	福島国際研究教育機構（エフレイ）の委託研究である「原子力災害医療科学分野における福島の知見の集積と国内外への情報発信」研究プロジェクトが本格始動し、研究代表者としての考え方を述べた。	長崎新聞	2024年5月2日	東日本大震災と東京電力福島第一原発事故の教訓を検証し、原子力災害や複合災害の防災・減災の国際的な指針に役立てるため、2029年度までに災害関連誌や社会的損失を最小化するための避難のあり方などを研究し、ガイドライン策定や情報発信拠点づくりをめざす。 第一原発事故発生後の避難について「住民がいち早く非難することできぱく線量を低く抑えられた一方、避難途中で亡くなった高齢の入院患者もいた」と指摘し、「一律ではなく、社会的弱者の避難のあり方を検証する必要がある」と強調した。 また、「エフレイが原子力災害医療科学分野の研究や専門家育成、情報発信の国際的拠点になるよう貢献したい」と話した。
高村 昇・教授	東日本大震災・原子力災害伝承館の来館者が、30万人を突破した。	福島民報	2024年7月7日	東日本大震災・原子力災害伝承館の来館者が、30万人を突破し、30万人目の来館者へ記念品を贈呈した。見込みより2年2ヶ月ほど早く、開館から3年10ヶ月での達成となった。被災地の復興の歩みを学ぶホープツーリズムが浸透しつつあるのに加え、県外を含む個人の来訪が多い点も目標を上回る要因になったとみられる。
高村 昇・教授	9月9日～12日まで、長崎大学福島未来創造支援研究センターの「災害・被ばく医療科学サマーセミナー」を双葉地方で開催する。	福島民友	2024年9月11日	災害・被ばく医療科学サマーセミナー初日の9日、「被ばくと健康、クライシス・リスクコミュニケーション」と題して講演した。現地及びオンライン、併せて約60人の参加者が高村教授の解説に耳を傾けた。
高村 昇・教授	福島での復興支援に携わる様子についてのドキュメンタリー番組「ドキュメント九州 つたえる～福島に寄り添う長崎の医師～」が放送された。	テレビ長崎（KTN）	2024年10月5日	被ばく医療の専門チームの中核人物として、13年に渡り被災住民に寄り添いながら復興支援を行ってきた様子について密着取材を受けた。
松永妃都美・准教授	東日本大震災・原子力災害伝承館と長崎大学が共同で、東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議に所属する語り部に対し、語り部活動に関する調査を行った。	福島民友	2024年11月1日	東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議に所属する21団体111人に対し、語り部活動に関する調査を行った（回答者75人）。調査回答を受け、「語り部は語りを聞いてくれる人や語りの場を求めていることが明らかになった。」と話した。

高村 昇・教授	フランス・モンペリアールにある科学博物館「サイエンスパビリオン」で、12月14日から東日本大震災・原子力災害伝承館の企画展を開催する。	L'Est Republicain (フランス新聞)	2024年12月14日	12月14日からフランス・モンペリアールの科学博物館「サイエンスパビリオン」で開催する、東日本大震災・原子力災害伝承館の企画展について説明。福島県の語り部2名について紹介されている。
松永妃都美・准教授	「未来に羽ばたく女性研究者賞」で優秀女性研究者賞を受賞し、12月23日に授与式にて表彰された。	長崎新聞	2024年12月24日	長崎大学が学内で優れた研究成果を挙げた女性研究者を顕彰する「未来に羽ばたく女性研究者賞」において優秀女性研究者賞を受賞し、授与式にて表彰された。東京電力福島第一原発事故で被災した住民とのコミュニケーションに資する研究を続け、復興を支援したことが評価された。永安武学長から「これからも自身の研究を続け、キャリアアップをしっかりとしながら、後輩の指導や支援を」とエールを送られた。

### 学術賞受賞

氏名・職	賞 の 名 称	授与機関名	授賞理由、研究内容等
松永妃都美・准教授	長崎大学未来に羽ばたく女性研究者賞「優秀女性研究者賞」	長崎大学ダイバーシティ推進センター	「東京電力福島第一原子力発電所事故で被災した住民との放射線リスクコミュニケーションに資する研究」について、東京電力福島第一原発事故で被災した住民とのコミュニケーションに資する研究を続け、復興を支援したことが評価された。